

●「SS 探究Ⅱ」の「ちょこプロ（１週間完結型プロジェクト）」の際に使用している。生徒が思考を深めるための指標とするとともに、教員が適切な声掛けをするためのツールとして活用している。

■ 評価ルーブリック：「問い・課題の質」

観点	A（とても良い）	B（良い）	C（一部に課題あり）	D（再検討が必要）
主体性・ 関心の高さ	自分の強い関心・経験・価値観に深く根ざした問いで、強い動機づけがあることが伝わる	関心のあるテーマに基づいており、一定の主体性が感じられる	興味関心が不明瞭で、外部から与えられた印象がある	自分ごとになっておらず、興味・関心との結びつきが見られない
探究性・ 深まりの可能性	多面的に探究でき、答えのない問いであり、調査や思考を深める余地が大きい	答えが一つでなく、調査・比較・考察などによる探究が期待できる	調査だけで終わってしまう可能性があり、深まりが限定的	単なる事実確認や一問一答で終わる問いで、探究にはつながりにくい
社会性・ 他者との関連性	社会や他者とのつながりが明確で、他者への影響・貢献・対話が想定されている	他者や社会との関連があるが、関係性がやや限定的	社会との関連が薄く、自分一人の関心に閉じている	他者や社会との関係性が全く見られず、孤立した問いになっている
具体性・明確さ	問いの主語・対象・目的が明確で、何を探究したいのかが一読して分かる	大まかに何を探究したいかが伝わるが、一部抽象的な部分がある	言葉が抽象的で、探究の焦点がややぼやけている	抽象的・漠然としすぎており、問いの意味が明確に伝わらない
実現可能性 （方法・期間）	実行可能な調査・収集・分析方法がイメージでき、時間や資源内で実行できる問いである	おおよそその実現可能性があり、現実的な探究につながりそうである	実現のイメージが曖昧で、方法や期間に無理がある可能性がある	実施が非常に困難、または非現実的である（データ・方法・期間などに課題が多い）

■ 評価ルーブリック：「独創性」

観点	3（高い）	2（ふつう）	1（低い）
発想の新しさ	一般的な考えにとらわれず、新しい切り口やアイデアを提示している	部分的に工夫はあるが、多くは既存の考えに沿っている	既存の考えをなぞっているだけで新しい視点が見られない
独自の 組み合わせ	異なる分野・視点を効果的に組み合わせ、新しい価値を生んでいる	いくつかの要素を組み合わせているが、新しさは限定的	一つの分野や視点に偏り、組み合わせの工夫がない
自分らしさ	自分の経験・関心を生かした独自の視点が明確に表れている	自分の関心の一部を取り入れているが、独自性はやや弱い	他人の考えを借りただけで、自分らしさが見られない
探究の工夫	調査・実験・表現方法に創意工夫があり、方法自体にも独創性がある	一部に工夫はあるが、基本的には既存の方法に頼っている	調査や表現方法に工夫がなく、受け身である
社会的価値・ 実現可能性	新しいだけでなく、社会や周囲に役立つ可能性が高い	新しさはあるが、社会的価値や実現性はやや限定的	新しさはあるが、実現不可能または社会的意義が乏しい

■反論・反駁の質ルーブリック

観点	4（優れている）	3（十分できている）	2（一部できている）	1（不十分）
理解の正確さ	相手の主張の意図や根拠を的確に理解し、論点を正確に捉えている	相手の主張の要点を理解しており、概ね的を射た反論になっている	相手の主張を部分的に理解しているが、焦点がずれているところがある	相手の主張を誤解している、または論点がずれている
根拠妥当性	客観的で信頼性の高い根拠（データ・調査・具体例など）を適切に用いている	適切な根拠を挙げており、一定の説得力がある	根拠が一般的・限定的で、説得力がやや弱い	根拠が不明確または主観的で、説得力に欠ける
論理の一貫性	主張→理由（根拠）→反論→反駁の流れが明確で、論理が整っている	おおむね筋道が通っており、理解しやすい構成になっている	論理のつながりが一部不明確で、説明に飛躍がある	論理の流れが不明確で、矛盾や飛躍が多い
多面的視点	相手の立場を尊重しつつ、自分の立場との違いを的確に示している	相手の視点にある程度配慮し、公平な姿勢で反論している	相手の立場を一応意識しているが、十分に踏まえていない	相手の視点を無視し、一方的・感情的に主張している
表現の説得力	言葉遣いや構成が明快で、読み手・聞き手に強い納得感を与える	文章・発言がわかりやすく、論旨が伝わる	内容は理解できるが、表現が抽象的または冗長（必要以上に長くてくだい）	表現が曖昧・断定的・感情的で、伝わりにくい